

廃木材を活用したダストボックスプロジェクト 『インシュレーションボード』で製作した「ごみ箱」を提供 ～ガンバ大阪と共にSDGsの取り組みをサポートに呼びかけ～

大建工業株式会社(大阪市北区、社長:億田正則)は、SDGs に貢献する活動の一環として、高萩工場で製造する木質繊維板『インシュレーションボード』(以下、IB)で製作した、地球環境にやさしい「ごみ箱」をガンバ大阪へ提供しましたのでお知らせいたします。尚、本「ごみ箱」は、2月25日に行われた「パナソニックスタジアム吹田」でのホーム開幕戦から設置し、「2023 明治安田生命 J1 リーグ」「2023J リーグ YBC ルヴァンカップ」のホームゲーム開催時の全試合に活用されます。



IBで製作した当社提供の「ごみ箱」



「ごみ箱」を使い、ゴミ分別を呼びかける様子
追手門学院大学生によるエコボランティア活動

当社は、地域社会への貢献と、一般消費者への認知度向上を図る為、2012年よりガンバ大阪とのスポンサー契約を締結しています。ユニフォームやトレーニングウェア等への当社ロゴ掲出をはじめ、2013年からは追手門学院大学経営学部水野浩児ゼミの学生とも連携し、学生たちがスタジアム来場者にゴミの分別を促す取り組みをサポートとしています。

また昨年からは、スポーツを起点に地域社会と交流し、社会課題の解決を目指すガンバ大阪のSDGsへの取り組みを支援する為、新たに「SDGsmile(エスディー・ジーズマイル)パートナー」契約を締結。その具体的な活動として、今シーズンから、廃木材等を原料とするIBで製作した「ごみ箱」をスタジアム3階コンコースのガンバサポーター側に設置し、環境に配慮したダストボックスとして、来場者の環境保護意識の向上を推進しています。

【今回提供したIB製「ごみ箱」の概要】

本体の強度や耐久性を考慮し、側板には軽量性と強度のバランスがとれた床下地用IBを使用。形状は、サッカーボールをイメージさせる六角形を採用し、本体正面には当社とガンバ大阪のロゴを焼き印しています。側板を固定する上下の留め輪は、当社が製造するフローリング製品を有効活用して環状に加工し、ジョイント部は釘や接着材を使わず接合・分解ができる組み立て式としました。細部のデザインだけではなく、地球環境にも配慮したこだわりの設計です。



「組み立て前の状態」

<主な仕様>

- 本体 : (側板)厚さ 12mm のインシュレーションボード、(底板)合板
- 留め輪 : 当社フローリング製品を加工して再利用
- サイズ : 高さ 612mm×幅 600mm/箱
- 重量 : 7.5kg/箱
- 容量 : 約 90L/箱

<以下、参考>

木質繊維板『インシュレーションボード』について

建築物の解体古材、廃木材などを主原料とする、環境に配慮したエコ素材です。木材を繊維状にしてから板状に成形し、乾燥させた木質ボードで、主に畳の芯材や外壁下地材、建築現場で作業中に床を保護する養生材などに活用されています。



公共工事分野においてグリーン購入法の特典調達品目に指定されております。

以上

※ここに掲載されている情報は発表時のものであり、ご覧いただいている日と情報が異なる場合があります。あらかじめご了承ください。